

# 浦添ふ頭計画比較表

資料1

項目	那覇港湾代替施設 南側配置	那覇港湾代替施設 北側配置
港湾機能	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民港のほぼ中央に代替施設が配置されるため、経済的一体の港湾として民港を管理運営する上で支障がある</li> <li>2. 民港のほぼ中央に配置される代替施設の岸壁から50mが制限水域として提供されるため、クルーズ船や貨物船など民間船舶の航行が少なからず影響を受ける</li> <li>3. 代替施設に接続する進入路が港湾関連用地を分断・横断する形で配置される可能性が高いため、コンテナ輸送トレーラー等の港湾関連車両と米軍関連車両の通行が錯綜するとともに、一時的に一般車両に制限がかかるなど、港湾物流機能の支障となる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民港と代替施設が分離して配置されるため、経済的一体の港湾として民港を管理運営する上で支障がない</li> <li>2. 代替施設の岸壁から50mが制限水域として提供されるが、民港と代替施設が分離しているため、クルーズ船や貨物船など民間船舶の航行へ影響がない</li> <li>3. 代替施設に接続する進入路を港湾関連用地と分離して配置できるため、コンテナ輸送トレーラー等の港湾関連車両と米軍関連車両の通行が錯綜せず、港湾物流機能の支障とならない</li> </ol>
環境	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民港施設の一部(例えばクルーズバス)を北側に配置せざるを得ないため、その施設配置によって潮流が遮断され、海浜前面での水質汚濁などの影響が予想される なお、北側に配置される民港施設の構造形式を工夫することによって、その影響を軽減することは可能と思われる</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 北側に代替施設が配置されることによって、潮流が遮断され、海浜前面での水質汚濁などの影響が予想される なお、代替施設の構造形式を工夫することによって、その影響を軽減することは可能と思われる</li> </ol>
安全	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 民間船舶(北側にクルーズバスを配置した場合はクルーズ船)の航路・回頭水域と米軍関連船の航路・回頭水域の重複が避けられず、航行安全へ影響がある</li> <li>2. 小型船だまりを利用する小型船の航路と、クルーズ船や米軍関連船の航路・回頭水域が重なる可能性が高く問題がある なお、小型船だまりの配置を工夫することで、問題を解消することは可能と思われる</li> <li>3. 代替施設に接続する進入路が港湾関連用地を分断・横断する形で配置される可能性が高いため、港湾関連車両と米軍関連車両の通行が錯綜し、陸上交通安全面において問題がある</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クルーズ船や貨物船など民間船舶の航路・回頭水域と米軍関連船の航路・回頭水域は一部重複する可能性があるが、航行安全へ影響がない(代替施設の配置を工夫することで、その影響をなくすことができる)</li> <li>2. 小型船だまりを利用する小型船の航路と、クルーズ船や米軍関連船の航路・回頭水域が重なる可能性が高く問題がある なお、小型船だまりの配置を工夫することで、問題を解消することは可能と思われる</li> <li>3. 民港と代替施設が分離しており、代替施設に接続する進入路が港湾関連用地と分離して配置できるため、港湾関連車両と米軍関連車両の通行が錯綜せず、陸上交通安全面において問題がない</li> </ol>
総合評価	港湾機能面、環境面、安全面を総合的に勘案すると、民港に与える影響・支障は非常に大きい	港湾機能面、環境面、安全面を総合的に勘案すると、民港に与える影響・支障は小さい

【凡例】 A: 民港に与える影響・支障がない B: 民港に与える影響・支障が少ない C: 民港に与える影響・支障がある